

平成 29 年度 多摩六都科学館組合一般会計歳入歳出決算の概要

1 決算の概況

多摩六都科学館組合の平成 29 年度決算総額は、歳入 4 億 7,331 万 5,611 円、歳出 4 億 6,691 万 6,649 円となり、歳入歳出差引残額は 639 万 8,962 円で、翌年度へ繰り越すべき財源はありませんので、翌年度繰越額、実質収支額とも同額となります。歳入・歳出ともに前年度を 3～4％上回っていますが、いずれもここ 3 年間は同規模で推移しています。平成 28 年度と比較し、投資的経費は大きく減少しましたが、維持補修費の伸び等による歳出の増がこれを上回ったことや、駐車場整備に係る長期借入金の元金償還が始まったことにより公債費が増加したため、歳出全体では微増となっています。歳入では、駐車場整備や施設の老朽化に伴う維持補修費の財源として、基金からの繰入金が歳入の 15％ほどを占めています（5 か年平均）。

科学館の利用者は、24 万 3,775 人と過去 2 番目に多いものとなっており、平成 25 年度から 5 年連続で 20 万人を超える高水準を維持しています。これにより指定管理者からの利用料金還元金が発生しており、3 年連続で 1 千万円以上の組合の歳入となります。

【表 1 決算の概況】

(単位：円、％)

決算収支の状況	平成29年度	平成28年度	比較増△減	増減率
歳入歳出予算現額	473,585,000	455,342,000	18,243,000	4.0%
歳入決算額	473,315,611	455,301,911	18,013,700	4.0%
歳出決算額	466,916,649	451,636,768	15,279,881	3.4%
歳入歳出差引残額	6,398,962	3,665,143	2,733,819	74.6%
翌年度繰越額	6,398,962	3,665,143	2,733,819	74.6%

2 歳入

構成市負担金は前年度と同額で全体構成の 80.7％となり、繰入金の 15.9％と合わせると 96.6％を占めています。諸収入では、指定管理者利用料金還元金の増額のほかは、使用料及び手数料、財産収入、繰越金が減となっており、合計で前年度比 1,801 万 3,700 円（4.0％）の増となります。

(1) 歳入の内訳

【表 2 歳入（目的別）】

(単位:円、％)

款	平成29年度	平成28年度	比較増△減	構成比	前年度比	増減の主な理由
1 分担金及び負担金	382,000,000	382,000,000	0	80.7%	0.0%	
2 使用料及び手数料	215,340	295,791	△ 80,451	0.0%	△27.2%	
3 財産収入	2,300	17,547	△ 15,247	0.0%	△86.9%	
4 寄附金	0	0	0	0.0%	0.0%	
5 繰入金	75,474,000	55,269,880	20,204,120	15.9%	36.6%	施設の安全対策、維持補修費等の増
6 繰越金	3,665,143	7,398,408	△ 3,733,265	0.8%	△50.5%	前年度の決算剰余金の減
7 諸収入	11,958,828	10,320,285	1,638,543	2.5%	15.9%	指定管理者利用料金還元金の増
歳入合計	473,315,611	455,301,911	18,013,700	100.0%	4.0%	

①繰入金は、施設の老朽化及び安全対策、大型空調機の維持補修・修繕費等の財源として、前年度比 2,020 万 4,120 円（36.6%）の増となっています。

②繰越金は、前年度（平成 28 年度）の決算剰余金となります。義務的経費の相対的な増加や緊急修繕の増加で、年々、繰越金額が縮小する傾向にあります。

③諸収入の主なものは、指定管理者利用料金還元金となります。還元金は、指定管理者との年度協定に基づき納付されるもので、組合では施設整備のための基金に積み立てています。

3 歳出

概ね予定通り執行されており、予算現額に対する不用額は 666 万 8,351 円で、執行率は 98.6% となっています。

【表 3 歳出（目的別）】

（単位：円、%）

区 分	平成29年度	平成28年度	比較増△減	構成比 (H29)	前年度比	増減の主な理由
1 議会費	1,348,781	1,369,946	△ 21,165	0.3%	△1.5%	
2 総務費	141,835,743	128,789,742	13,046,001	30.4%	10.1%	修繕料の増(16,272千円)
3 事業費	292,241,160	318,917,080	△ 26,675,920	62.6%	△8.4%	駐車場借上料、館庭整備工事の減
4 公債費	31,490,965	2,560,000	28,930,965	6.7%	1130.1%	元金償還金分の増
5 予備費	0	0	0	0.0%	—	
歳出合計	466,916,649	451,636,768	15,279,881	100.0%	3.4%	

①総務費は前年度比 10.1%増で、主に施設維持補修等の修繕料の増分によるものです。

②事業費の減は、主に駐車場整備工事の完了に伴う建設事業費の減によるものです。

③公債費は、駐車場整備のための東京都区市町村振興基金の長期借入の償還金ですが、前年度までは元金据置であったため当年が元利償還金の初年度となり、2,893 万円の増となっています。

4 基金

組合には条例に基づき財政調整基金と施設整備基金があります。財政調整基金は、主に緊急性の高い修繕や財源の調整に活用し、施設整備基金は、施設・設備の補修・更新等に充てていくための財源となります。

【表 4 基金の状況】

（単位：円）

	財政調整基金				施設整備基金			
	前年度末現在高	積立額	取崩額	年度末現在高	前年度末現在高	積立額	取崩額	年度末現在高
平成27年度	91,150,209	3,101,000	22,123,000	72,128,209	77,261,153	39,648,100	55,944,000	60,965,253
平成28年度	72,128,209	3,712,534	4,038,000	71,802,743	60,965,253	39,709,257	51,231,880	49,442,630
平成29年度	71,802,743	1,834,000	51,174,000	22,462,743	49,442,630	28,688,000	24,300,000	53,830,630

①財政調整基金は、法令に基づき前年度決算剰余金の一部を積み立てているほか、主に施設・設備維持補修の財源としています。

②施設整備基金は、利用料金還元金や運用利子を積み立てています。充当先は、主に施設・設備更新工事等の財源としています。

5 財産（土地・建物、物品）

平成 29 年度は、土地・建物に増減はありませんが、物品では天体観望会用の天体望遠鏡 1 点を購入しています。

【表 5 公有財産・物品の増減内訳】

(単位:㎡、件)

区分 内訳	前年度末 現在高	決算年度中増減高		決算年度末 現在高	備 考
		増	減		
土地(㎡)	15,907.55	0	0	15,907.55	うち行政財産の合計 15,704.12
行政財産(科学館)	10,880.46	0	0	10,880.46	
行政財産(駐車場)	4,823.66	0	0	4,823.66	
普通財産(道路)	203.43	0	0	203.43	
建物(㎡)	6,868.44	0	0	6,868.44	
木造(延面積)	0	0	0	0	
非木造(延面積)	6,868.44	0	0	6,868.44	
物品(50万円以上、件)	15	1	0	16	
件数	15	1	0	16	天体望遠鏡1点の増